

【土幌町】

校務 DX 計画

土幌町はクラウド型校務支援システムを導入しており、他にも Microsoft Teams を活用した情報共有システムを整えることで、教員間の伝達事項等についてオンライン上でのやり取りが実現されている。

また、保護者とのやり取りにおいてもデジタル化を図り、欠席連絡や学校からの連絡事項について、町の公式 LINE、学校へのメールでのやり取りを可能としている。

児童生徒とのやり取りについても Microsoft Teams を活用し、課題等についてもデジタルドリル教材等を活用している。

また、FAX については現時点で使用が極僅かであり、押印についても管理職への確認時に使用しているに留まることから、令和7年度中に原則廃止となるよう働きかけていく。

このように、各種デジタル化を推進する中で、今後の課題について次のとおり記載する。

1. ゼロトラスト環境の構築

(1) 校務系及び学習系ネットワークの統合

土幌町では、セキュリティ確保のため、校務で利用するパソコン用のネットワークと授業等で児童生徒がアクセスできるネットワークをそれぞれ整備し、校務系と学習系でネットワークを分断してきた。

しかし、今後ゼロトラストセキュリティの考え方に基づいた統合型ネットワークの構築が求められることから、教員のタブレット端末から学習系、校務系両方のネットワークを利用できるよう、セキュリティ対策踏まえ、ネットワークの統合について調査研究を進めていく。

2. ペーパーレスの推進

これまで土幌町では、校務支援システム等の機能により、職員間の情報交換や資料など

をデータで共有するなどペーパーレスな取組を実践してきた。

一方、課題として、学校現場では学校通信など保護者へ紙媒体で配布する状況が残存している。

土幌町ではこれまで、保護者への連絡体制として緊急メール連絡網システムを導入しており、緊急時の連絡はもとより、様々な情報をメールで連絡するシステムが構築されている。

現状児童生徒は1人1台端末により各種クラウド利用の個人アカウントが付与され、そこで情報共有ができていることから、保護者への配布物等は、個人情報等のセキュリティ制限のかからない配布物については、既存のメールシステムにより配布することを推奨し、ペーパーレス化を推進する。

また、学校間をまたぐ会議等においても、授業用端末及びクラウドサービスの活用により、会議資料のペーパーレス化をより一層推進していく。

3. 校務における生成A I等の活用

先進的に実践している学校や自治体を参考にしながら、土幌町においても学校での生成A Iの利用に関する規定を定め、教育場面や校務での利活用に向けて調整していく。